

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	Mengo Extraction Control - RT-PCR Enz
製品番号	KMG
SDS No.	1326
製造元	
会社名	bioMérieux Inc
住所	100 Rodolphe Street - Durham, NC 27712
電話番号	(800) 682-2666
会社名(販売元)	バイオメリュー・ジャパン株式会社
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-7 赤坂溜池タワー2F
担当部門	薬事部
電話番号	03-6834-2666
緊急時の電話番号	03-6834-2718
FAX 番号	03-6834-2667
Website	http://www.biomerieux.co.jp/
推奨用途及び使用上の制限	試薬

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的・化学的危険性	区分なし
健康に対する有害性	皮膚腐蝕／皮膚刺激 区分 2 重篤な眼の損傷／眼刺激 区分 1
環境に対する有害性	長期継続的影響により水生生物に有害 区分 3
特別な有害性	データなし
主な症状	直接眼に接触した場合、一時的な刺激を引き起こす可能性がある。
GHSラベル要素	

シンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H315：皮膚刺激 H318：重篤な眼の損傷 H412：長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

安全対策	P280：保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 P305 + P351 + P338：眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P337 + P313：眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。 P302 + P352：皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
応急処置	4. 応急処置 を参照。

保存方法	7. 取扱い及び保管上の注意	を参照。
処理方法	13. 廃棄上の注意	を参照。
その他の危険性	データなし	
特別情報	なし	

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (%)	化学式	CAS 番号
グリセリン	60 - < 70	C ₃ H ₈ O ₃	56-81-5
Triton X100	5 - < 10	(C ₂ H ₄ O) _n C ₁₄ H ₂₂ O	9002-93-1
その他の成分	30 - < 40	特定できない	—

*特定の化合物名やその含有濃度は、企業秘密として非公開にしている。

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

化学物質排出把握管理促進法
(化管法)

第一種 (政令番号 1-408)

Triton X100

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動させ、症状が悪化または続く場合なら、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

石鹸と水で洗い流すこと。

眼に入った場合

皮膚刺激が続く場合には、医師の診断、手当てを受けること。

直ちに多量の水で 15 分間以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続くようなら、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。大量に飲み込んだ場合、ただちに毒物管理センターに連絡すること。無意識 (意識不明) の場合、又は痙攣を起こしている場合には、被害者の口からは何も入れないこと。毒物管理センターからの指示なく、被災者へ嘔吐を誘因しないこと。嘔吐症状が現れた場合は、頭を低く下げ、肺に嘔吐物が侵入しないようにし、医師の手当、診断を受けること。頭痛、吐き気、嘔吐、そして、様々な眼刺激があります。眼刺激の症状の中には、刺すような痛み、裂傷、発赤、腫れ、霧視、なども含まれる場合があります。永続的な眼の損傷もあり、盲目になることもある。

最も重要な症状及び影響 (急性/遅延性)

症状により遅れて発症する可能性がある。

発症時に注意すべき事項

5. 火災時の措置

消火剤

アルコール耐性消火薬剤。粉末消火剤。二酸化炭素 (CO₂)。

使ってはならない消火剤

勢いのある水噴霧、棒状注水は被害を増大するため使用しないこと。

特有の危険有害性

火災になった場合、有毒ガスが発生するおそれがある。

消火を行う者の保護及び注意事項

火災時は、自給式呼吸器と完全防護服を必ず着用すること。

消火方法及び指示

危険でなければ火災区域から容器を移動させること。

特有の消火方法

標準の消火方法を用いる。その他含有される原料の有害性も考慮すること。

一般的火災の危険性

特になし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

不要な作業員を遠ざけること。関係者以外は近づけない。
後片付けの最中は、適切な保護具及び保護服を着用すること。
適切な保護具を着用していない限り、壊れたコンテナや漏れ出た物質には触らないこと。

封じ込め及び浄化の方法・機材

大量に流出した場合：危険性が低い場合は、製品の流出を止めること。パームキュライトや乾燥した土砂で吸水し、容器に移すこと。回収でき次第、水でその場を洗い流すこと。

少量流出した場合：吸収性素材（例：布、フリース）で拭き取ること。
汚染物質が残らないよう作業場所を清浄すること。

環境に対する注意事項

流出物は再利用目的で元の容器に戻さないこと。
環境中への放出を避けること。また、そのためにも漏洩を防ぐこと。
排水溝、水路又は地表面への放出（排出）を避けること。
適切な管理者又は監督者に、環境への放流したものについての情報を伝えること。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全取扱い注意事項

製品に触れた手で目に触れないこと。長時間のばく露を避けること。十分な換気経路を確保すること。適切な個人用保護具を着用すること。
使用説明書をよく読み、正しい場所、正しい使用方法の元で取り扱うこと。

安全な保管条件

元のしっかりした密閉容器を用いること。

8. ばく露防止及び保護措置

	CAS 番号	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
			日本産業衛生学会	OSHA (29 CFR 1910.1000)
グリセリン	56-81-5	未設定	未設定	TWA 5 mg/m ³ (呼吸分画) 15 mg/m ³ (全粉塵)

生物学的ばく露指標
設備対策

この成分に対する注意すべき生物学的ばく露指標はない。
性質の良い一般換気装置を設置すること（例として、1時間当たり10回空気交換するもの）。換気速度（効率）は一定であること。
可能であれば、局所的換気装置やその他の設備対策を用いて囲い込み構造を使用すること。空中レベルを推奨されているばく露レベル以下に維持できるため。
ばく露限界が設置できない場合は、空中レベルを許容されるレベルに維持すること。洗眼洗浄のための設備を設置すること。洗眼器（設備）を設置すること。

保護具

眼/顔の保護具

眼に入らないようにすること。
サイドシールドのある安全眼鏡（あるいはゴーグル）を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。
ニトリル製の保護手袋を使用すること。

皮膚及び身体の保護具

皮膚に接触させないこと。適切な保護衣を着用すること。

呼吸器の保護具	個人用の呼吸器保護具は通常不要だが、十分に換気ができない場合は適切な呼吸器保護具を着用すること。
熱危険性	データなし

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态	液体
	形状	データなし
	色	無色透明～ほぼ無色
臭い		データなし
臭いのしきい(閾)値		データなし
pH		データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
引火点		データなし
蒸発率		データなし
燃焼性(固体、気体)		非該当
燃焼又は爆発範囲	可燃限界	データなし
	下限	データなし
	上限	データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度(空気=1)		データなし
相対密度		データなし
溶解度(水)		データなし
(その他)		データなし
n-オクタノール/水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
熱分解温度		データなし
粘度		データなし
その他の情報	密度	1.26 g/cm ³ (推定)
	揮発性	60%(推定)
	特異的重力	1.26(推定)
	VOC	60%(推定)

10. 安定性及び反応性

反応性	この製品は通常の使用、保管、輸送条件下では安定で、かつ非反応性である。
化学的安定性	通常の取り扱い温度、圧力等の条件下では安定である。
危険有害反応の可能性	危険な重合反応は起こさない。
避けるべき条件	混触危険物質との接触。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	危険な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

ばく露経路情報		
	吸入	長時間の吸入は有害であると推測される。
	皮膚への接触	皮膚接触によって悪影響が及ぼされることは考えられていない。

眼への接触	重篤な眼の損傷が生じる。
経口摂取	摂食由来の有害性は低いと推測。
様々な症状	頭痛、吐き気、嘔吐、そして、様々な眼刺激があります。眼刺激の症状の中には、刺すような痛み、裂傷、発赤、腫れ、霧視、なども含まれる場合がある。永続的な眼の損傷もあり、盲目になることもある。
急性毒性	データなし
皮膚腐食性/刺激性	長期的に接触し続けると、一時的に痛みが起こる。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	重篤な眼の損傷が生じる。
呼吸器感作性	呼吸器感作性はない。
皮膚感作性	皮膚感作性はないと推測される。
生殖細胞変異原性	製品または含有成分が、0.1%より高い確率で変異原性もしくは遺伝毒性を引き起こすことを示すデータはない。
発がん性	本製品は、IARC, ACGIH, NTP, OSHA より発がん剤ではないと考えられる。
生殖毒性	影響なし。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類されてない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類されていない。
吸引性呼吸器有害性	有害性はない。
その他情報	長時間のばく露は慢性的な影響を及ぼす。

12. 環境影響情報

生態毒性 長期継続的影響により水生生物に有害である。

化合物	種別	試験結果
RT-CR Enz 水生 魚類	LC50 魚類	1080.7314 mg/L, 96 hours (推定)
グリセリン (CAS 56-81-5) 水生 魚類	LC50 ニジマス	51000 - 57000 mg/L, 96 hours
Triton X100 (CAS 9002-93-1) 水生 魚類	LC50 ブルーギル	2.8 - 3.2 mg/L, 96 hours

* 製品としての概算（推測）は、追加成分データに基づく場合がある（図示化してない）。

残留性及び分解性 この製品の分解性として提供できるデータはなし。

生物蓄積性

n-オクタノール/水分配係数 (log Kow)

グリセリン -1.76

土壤中の移動度

他の有害影響

データなし

この成分からの環境に対するその他の有害影響はなしと推測。

(例：オゾン層破壊の可能性、光化学的オゾン発生の可能性、内分泌かく乱の可能性または地球温暖化の可能性)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄処理規制	収集・回収、または密閉容器に入れて、認可されている廃棄物処理場へ引き渡すこと。 内容物や容器の廃棄においては、地方規制並びに地方自治体や国際規制基準に従うこと。
地方での処理規制 危険廃棄物規制	全ての適用されている規制に従って処理すること。 廃棄物処理規制は会社や処理業者、使用者の間で話し合いのもと、選定すること。
残留物/未使用製品の廃棄	廃棄においては、地方自治体の規制基準に従うこと。 空容器や裏地を廃棄する場合は、残留物がまだ残っている可能性があるため、安全な方法で処理しなければいけない。(処理方法は、残余廃棄物、廃棄処理規制の項を見ること。)
汚染容器及び包装	空容器は認可を受けた廃棄物処理場に受け渡し、リサイクルするか、適切な処分を行うこと。 空容器にも製品の残留物が残っている場合、容器が空になっても警告等の表示に従うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	I M Oの規定に従う。	
	UN No.	UN3082	
	Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCES, LIQUID, N.O.S. (Triton X100), MARINE POLLUTANT	
	Transport hazards class(es)		
	Class	9	
	Sub Risk	-	
	Label(s)	9	
	Packing Group	III	
	Environmental hazards		
	Marine Pollutant	Yes	
	EmS	F-A, S-F	
	Special precautions for user	データなし	
		航空規制情報	I C A O / I A T Aの規定に従う。
		UN No.	UN3082
		Proper Shipping Name	Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s. (Triton X100)
	Transport hazards class(es)		
	Class	9	
	Sub Risk	-	
	Packing Group	III	
	Environmental hazards	Yes	
	ERG Code	9L	
国内規制	陸上規制情報	該当なし	
	海上規制情報	該当なし	
	航空規制情報	該当なし	

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (化管法)	第1種指定化学物質(政令番号:1-408)(Triton X100)
化学物質審査規制法 (化審法)	既存化学物質(官報整理番号:2-242) 製造輸入量の届出を要しない物質(グリセリン)

16. その他の情報

参考文献	NITE GHS 分類公表データ EU CLP Regulation, Annex III 国立医薬品食品衛生研究所 国際化学物質安全性カード bioMerieux Inc 製品 SDS (2019-09-26) 記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。
------	---